

実践形式の訓練で意識の定着を

訓練開始のサイレンが鳴り響いた8月28日午前8時過ぎ、本町全体で一斉に総合防災訓練が始まった。さまざまな訓練は、全て実践に即した形で実施。訓練で身に付けたのは「知識」や「技術」だけじゃない。最も大切なのは「防災意識」の定着だ。



自主防災会会員による負傷者搬送訓練

前日の夜、健康増進施設（本庁舎横）では、各地区の代表者らが参加して避難所運営訓練が実施された。ある参加者は「初めての避難所体験。体育館の床は背中が痛くて寝付けない。きつさは想像以上。暑い夏場では耐えられないかも」と話した。28日午前8時39分。町内にサイレンが響き渡り訓練が始まった。本庁舎前では、道路を覆う電柱や倒木、ブロック塀の残骸や自動販売機などを取り除く道路啓開訓練が始まる。消防団員や地域住民が力を合わせて重い障害物を取り除いた。救助資機材取り扱いゾーンでは、普段取り扱うことのない機材を使って、コンクリートを切ったり、チェーンソーを使って丸太を切ったり、ジャッキを使ってブロック塀を動かしたり、ロープと滑車で倒木を除去したりという作業を体験した。その向こうでは大きなハンマーやバールを使って家屋の壁に穴を開けていた。大きな音を立てて穴は空くが、人が通れるくらい大きく広げるのは想像以上に困難な作業だ。



諸田環さん（本町消防団本部・久野脇）

実践形式での普通救命講習は初めての体験でした。実際の災害時には、学んだことを生かして冷静に対処したいと思います。とても良い経験になりました。



松下稔也さん（川根高校3年・久野脇）

実際に大きな災害が起こると自分自身、何をしたらいいのかわからなくなると思います。そのとき、自分は何をすべきなのか、しっかり学びたいと思います。



板谷雅治さん（川根高校3年・水川）

普段とは違う訓練の数々がとても勉強になりました。大きな災害などが起こったときには、自分から行動し、人のためになることを実践したいと思います。

総合防災訓練 実施内容

●北部会場（本川根小学校）

火災対応訓練
高所救出救助訓練
倒壊家屋救出救助訓練
給水訓練、炊き出し訓練
応急救護訓練
負傷者搬送訓練
鉄道乗客避難訓練
徒橋設営訓練

●南部会場（役場本庁舎周辺など）

情報収集訓練
道路啓開訓練
救助資機材取扱訓練
倒壊家屋救助救出訓練
負傷者搬送訓練
炊き出し訓練
災害ボランティア本部開設訓練
避難所運営訓練
災害トリアージ訓練
救難サイン表示訓練
広域搬送訓練
緊急支援物資輸送訓練
孤立集落救出訓練
遺体処理訓練
応急危険度判定訓練



倒壊した家屋の屋根に登り、チェーンソーを使って屋根を切断。進入路を切り開く。足場の悪い場所で、いかに迅速に行動できるか。それが、中に閉じ込められた要救助者の早期救出の鍵となる。

◀にこつた水をきれいにし、飲料水にする「ろ過装置」には多くの子どもたちが興味津々。

▶炊き出し訓練では、長蛇の列を成した参加者全員に食料を行き渡らせることができた。

消防団全分団が参加した倒壊家屋救助救出訓練は、崩れ落ちた家の中に閉じ込められた人を安全に救い出す想定。団員が声を掛け合い、屋根を切断して上から進入したり、壁を壊して横から担架を運び入れたりして、迅速に要救助者を救出した。本川根小を中心とした北部会場では、火災対応訓練、倒壊家屋負傷者救出訓練、応急救護・負傷者搬送訓練などが実施された。

崩れた家の中から「動けない。助けて！」という声が聞こえる。すぐさま地域住民が、チェーンソーを持って屋根に登り、屋根を切り開いて進入路を確保。侵入を試み、迅速な救出劇を繰り広げた。

校舎の3階窓から「助けて」と叫ぶ人がいる。北部会場訓練の目玉の一つ「高所救出訓練」が始まった。金谷消防署北分遣所員が現場にロープを張り、担架をつり下げて負傷者を救出。慎重に地面へと下ろした。

「食料が200人分しか確保できない中で、300から400人いる参加者全てに食事を行き渡らせる」という困難なシナリオをたてた炊き出し訓練。12人の炊き出し班の工夫によって全員に食事が行き渡った。

訓練後、防災担当職員は「今回は自主防災会のための訓練。住民の皆さんや子どもたちが自ら参加しようという意識が見られたのは大きな収穫」と語った。



下写真右／訓練用の水消火器を使って消火の練習をする自主防災会の会員たち 中／大井川鐵道から「土砂崩れが発生し列車が立ち往生」と一報が入る。消防団が駆けつけ、取り残された人たちを救出した 左／小さな子が消防署員の手ほどきを受けながらチェーンソーで壁を切断した

